

## はじめに

二十世紀後半の約五十年を、日本人は経済発展だけを考えて生きてきました。政治をはじめとして、社会のあらゆる制度を経済一辺倒にしてしまつたのです。そして教育制度も、大企業が期待する人材を養成する目的に組み替えられました。

その結果、日本の社会から宗教が放逐されてしまいました。宗教の言つことなど聞いてみると、経済発展に支障を来す。宗教家の発言など、所詮は負け犬の遠吠えであつて、聞くに値しない。そんな世の中の風潮になつてしまいました。

しかし、二十一世紀を迎えて、そうした経済一辺倒の日本の社会に大きな歪み<sup>ひず</sup>が目立ち

はじめています。日本の社会は制度疲労をしているようです。

いまこそ、宗教が必要な時代です。経済一辺倒では、日本の社会は崩壊してしまいます。宗教に真の人間の生き方を学ばねばなりません。

宗教、とくに仏教の僧侶の人々にも責任があります。お坊さんは、全員ではありませんが、お葬式ばかりをやっていて、仏教が教えるべき教えを説いてこなかったのです。仏教学者はむずかしい教理ばかりを論じて、庶民に仏教の教えをわかりやすく解説する仕事を怠ってきました。だから人々が仏教に生き方を学ぼうとしても、どう学んでよいかわからなかったのです。

わたしは経済学者に言われたことがあります。

「ひろさん、多くの人々が仏教の教えを聞きたいと思っています。でも、アクセスの仕方がわからないのですよ。仏教関係者の怠慢だと思いませんか……」

わたしは小さな声で、「すみません」と言うだけでした。

この本は、「3日わかる」と題されています。堅物の仏教学者が聞けば、怒り出すようなタイトルです。

けれども、大事なのはアクセスです。仏教に、どのようにして接近・接触すればよいか

を、人々は知りたいと思っっているのです。

まず読者は、仏教の世界に入ってみてください。そうして、仏教の世界をざあっと見てください。本書はそのような入門書として企画されています。

本書によって、読者が少しでも仏教に興味を持っていただければ幸いです。

合掌

二〇〇二年二月

ひろさちや